第4回

万博で労働安全情報発信

ILOが23年に公表した統計では労働関連死は世界で年間約300万人による（中国・北京の建設現場＝07年、©ILO）

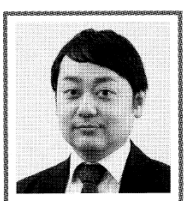
安全で健康的な職場環境への投資はSDGs（国連の持続可能な開発目標）の達成に不可欠である。労働安全衛生は、SDG3（あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する）やSDG8（包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する）の達成、特にターゲット8・8（移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を守り、安全・安心な労働環境を促進する）に直結するテーマである。労働災害、労働関連疾病の予防は、社会正義の達成と持続可能な開発の実現にとって国際的な課題としてより一層認識されている。

しかし、国際労働機関（ILO）の推計では、世界全体で毎年2・60万人が労働関連疾病により、33万人が労働災害により、それぞれ死亡しているほか、3億9500万人が労災事故で負傷しており、その経済的損失は世界のGDPの約4％との試算がある。とりわけ長時間労働、ガスや粉じん、化学物質への暴露による循環器系疾患、悪性腫瘍、慢性呼吸器疾患のリスクが高いことが分かっている。

これらの状況を背景に、2022年の第110回ILO総会において、労働における基本的原則および権利に「安全で健康的な労働環境」が追加されており、今後、さらなる労働安全衛生の促進が期待されている（図1）。

25年4月13日に開幕した大阪・関西万博では、GI Global Initiative for Safety, Health & Well-being at EXPO2025 and Beyond（GISHW）により「安全・健康・ウェルビーイングデイズ」が7月16～19日に、大阪・関西万博会場（大阪市此花区）とインテックス大阪（同住之江区）会場で開催される。

GISHWは、労働安全衛生・ウェルビーイングに関する専門機関・団体、企業、専門家たちが、国を超えたパートナーシップで結束したイニシアティブであるが、「先述の期間において、労働安全衛生の専門家だけでなく、一般の万博来場者も対象とした多様なイベントが企画されている。



国際労働機関（ILO）駐日事務所ナショナル・プロジェクト・コーディネーター

本庄 宏式

88年（昭63）生まれ、兵庫県出身。ロンドン大東洋アフリカ学院（SOAS）開発学修士。14年厚生労働省入省。日立製作所人財統括本部人事勤労本部、三菱総合研究所人材・キャリア事業本部を経て、24年7月から現職。

働く人の安全・健康・ウェルビーイング

図1

労働における基本的原則および権利
結社の自由及び団体交渉権の実効的な承認
あらゆる形態の強制労働の撤廃
児童労働の実効的な廃止
雇用及び職業についての差別の撤廃
安全で健康的な労働環境

若年層に学び・行動提案

ミドル―シニア世代と意識共有

ILOは本企画に参画し、7月17日に「ILOユースコングレス～職場の安全・健康・ウェルビーイング～デジタル時代に生きる私たちの提案～」を博覧会協会のEXPOホールで開催する。ILOユース・コングレスは、第21回世界労働安全会議（17年シンガポール）におけるYouth Congressの成功をもとに企画され、若年労働者、大学生、高校生が、安全で健康的に働くにはどのような仕組みや制度、技術、取り組みが必要かという課題について学び、考え、社会に向けて具体的なアクションを提案するイベントである。

一般的に、若年労働者は、労働災害のリスクが高いにもかかわらず、安全で健康的な労働環境に対する権利についての意識が低く、労働安全衛生に関する支援や制度へのアクセスが限られることが多いと言われている。そのためイベントでは、ビジネスと人権を推進するための重要な要素である労働安全衛生・ウェルビーイングについて、若年労働者が知識を得て、安全で健康な働き方を実践する能力を身に付けることを目的にしている。また、若者の声を通じて、企業や組織だけでなく社会全体の安全、健康、ウェルビーイングに関する意識や予防への取り組みを改善し、ディーセント・ワークと持続可能な社会の実現に貢献することも目的としている。

ILOユースコングレスは、①学ぶ②考え、議論し、提案を作成する③実践する―の3つの要素で構成される。国内外から参加する若い世代は、まずILOが開催する事前セミナーにより、労働安全衛生やビジネスと人権に関連する知識を得る。その後、チームごとに「安全で健康的に働くためには、どのような仕組みや制度、技術、取り組みが必要か」を検討し、アクションプラン（Call to Action）を作成する。

事前審査を経て、選ばれたチームは、万博での最終審査において、英語でCall to Actionのプレゼンテーションを行う。最終審査では、日本の政府や国連機関などの代表者が審査員を務める予定で、会場の一般来場者も審査に参加できるようにする方向だ（図2）。優秀な提案については、企業での実装や、その成果を第24回世界労働安全会議（26年）で発表することも検討されており、現在、日本から9大学、3高等学校、合計12名（28チーム）が、海外から7カ国、合計88名（22チーム）が本イベントに参加し、学びを続けている。

ILOでは、若者が安全な職場や労働災害について考え、労働安全衛生への理解を深める取り組みを長年実施している（フィリピンでのワークショップ＝19年、©ILO／G. Carreon）

大学生・高校生や若年労働者の7世代は、既存の社会システムや会社で働いてきたミドル―シニア世代と価値観や考え方が大きく異なっていると言われる。だが、あらゆる物事が激しく変化し、将来の予測が難しい現代社会において、既存の社会システムや会社で働いてきた世代と若い世代がお互いの意見や考えを共有し、より良い未来を創っていくことは非常に重要だ。彼らの自由な発想に基づく提案に、大きな期待が寄せられている。

ILOは、1919年の創設以来、社会正義を基礎とする世界の恒久的な平和を目指し活動しており、国際労働基準の制定をはじめとして、労働条件の改善、生活水準の向上、貧困の削減に向けた取り組みを推進してきた。ILOは大阪・関西万博のイベントを通じて、世界中のステークホルダー（利害関係者）と協力関係を築き、安全で健康的な労働環境を実現することを目的に、上記の活動を企画している。

これらのイベントを通じて、職場における安全、健康、ウェルビーイングに関する国際的な交流や知識の共有が行われ、今回の万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」がされることを期待してやまない。

世界のステークホルダーと協力築く

図2

ILOユースコングレス 職場の安全・健康・ウェルビーイング～デジタル時代に生きる私たちの提案	
日時	25年7月17日（木）15：00～18：00
場所	日本国際博覧会（大阪・関西万博）EXPOホール「シャインハット」
内容	デジタル時代を生きる国内外の若者が、職場における安全、健康、ウェルビーイングの実現・推進に向けて作成したアクションプラン（Call to Action）の発表をし、その審査を行うピッチコンテスト

リニューアルオープンしました！ より探しやすく、見やすく、使いやすくなりました

注目の製品・技術・サービスと出会える。 業界トレンドも分かるWebサイト。

新しいビジネスの場 BiZ・NOVa ビズノヴァ

掲載しているジャンル

電機・電子・情報・通信
産業機械・機構部品
環境・エネルギー・防災
建設・建築・土木・道路・住宅・住宅設備
食品・医薬
工作機械・ロボット・加工技術
素材・化学
自動車・航空機・宇宙・鉄道
物流・搬送
イベント・ビジネス全般

※一部記事除く

詳細はこちらから

＼まずはみてみる／ Biz-Nova https://biznova.nikkan.co.jp

<お問い合わせ先> 日刊工業新聞社 「Biz-Nova」事務局 https://biznova.nikkan.co.jp/contact/ Mail：biznova@nikkan.tech